

『ブルー・マーズ』下巻のあら すじのメモ

takaidos

下巻メモ

キム・スタンレー・ロビンソン/Kim Stanley Robison

"Blue Mars"1996年発刊。

2017年4月、大島豊・訳。

科学知識の上では博識で政治的・社会的で、情景描写が植物の名前にせよ、鳥の名前や特徴にせよ具体的。スケールが大きい。

火星の話から、小惑星、外惑星、内惑星の開発、植民地への話へと広がって行く。

例えば太陽光で寒暖差の激しい水星で都市自体を列車のように常に動かしている、とか、外惑星に水星で集光したビームを送って照らすとか、巨大惑星のガス大気でガス・ランタンを灯して外惑星を明るくする、など。

スピリチュアルや民間療法の話も織り込まれている。

性描写は如何なものか？

火星で民主的に開かれた世界では性の自由度も増すということか？

火星一周ランニングや登山、航海の描写が長く、著者のアウトドア活動が火星であたかも旅をしているかのような描写に繋がっているのかと思う。

ヒロコが舞台から消えて伝説の人となり、ナディアが一時火星政府に入って働き、ジャッキーが娘ゾーを特使として対地球・対移民政策活動を通して権力を握るがゾー死後、アルデバラン星系に行ってしまう。

第三次火星革命も起きるが最初の百人が火星政府に駆け込み指導をし、暴力的革命を回避する。

知識分野が広く、色々知識の断片をもとに考えさせられるが、登場人物や長命治療による精神年齢のあり方については馴染めない。

もっと標準的な、俗物的な人間とその日常生活を追って、地に足の着いたストーリーであれば良かった。

例えば火星のテレフォーム、開発中では至る所で『大草原の小さな家』のような開拓時代の出来事がたくさんあるはずだが、本作ではおおよそ政治学の概要初めにありきで、細かい所は繋ぎになってしまっているという印象。

随所で暖簾に腕押し、冗長で自分の理解も消化不良となったが、小説・作品というより、著者の渾身のライフワークという感じで、現時点で原初の自然のままの火星にここまで空想の世界を築き上げた意義は大きい。

<目次>

Contents

Part 1: Peacock Mountain

Part 2: Areophany

Part 3: A New Constitution

Part 4: Green Earth

Part 5: Home at Last

Part 6: Ann in the Outback

Part 7: Making Things Work

Part 8: The Green and the White

Part 9: Natural History

Part 10: Werteswandel

Part 11: Viriditas

Part 12: It Goes So Fast

Part 13: Experimental Procedures

Part 14: Phoenix Lake

第8部 緑と白(承前)

第9部 博物誌

第10部 価値の変容(ヴェルテスヴァンデル)

第11部 緑化力(ヴィリディタス)

第12部 進むのが速すぎる

第13部 実験的手順

第14部 鳳凰の湖

謝辞

解説/渡邊利道

火星三部作 作中年表

<登場人物>

ニルガル:ザイゴート生まれ三世。体外受精児。ヒロコとコヨーテの子。Greens.自由火星党フリー・マーズ。火星年では26歳、地球年では中年。

ジャッキー・ブーン:JackieBoone. ザイゴート生まれ、体外受精児。ジョンの孫、カセイの娘。Greens。人権重視。自由火星党・フリー・マーズ。行政評議会メンバー。大統領職を狙う野心家。火星年15歳。10歳の時より長寿処置を受けている。

レイチェル:ザイゴート生まれ。ニルガルの幼馴染。明日香近くの港町。

ティウ:ザイゴート生まれ。ニルガルの幼馴染。明日香近くの港町。

田力:明日香。

ヨシ:明日香で農耕を営む。

ナディア・チェルネフスカヤ:Nadia. 最初の100人のひとり。技術者。バロウズの水没についてアンと対立。Greens. 159歳。行政評議会議長。火星初代大統領。明日香に住む。

アート・ランドルフ:Art Randolph.超国家企業プラクシスの外交官。Greens. 70~80歳。明日香に住む。

ニッキ:アートとナディアの娘。

ヴィジカ:ニルガルの学生時代からの友人。

ルール:ニルガルの学生時代からの友人。

アネット:ニルガルの学生時代からの友人。

ハリー・ホワイトブック:動物生体研究者。

バオ・シュヨ:火星ドルサ・ブレヴィア生まれの若い女性天才理論物理学者。物理学の初代女王。日本人とポリネシア人の混血。前進型ロヴェリースモリン演算子を考案。量子力学と重力を完璧に統合。4歳のときに母親から2次方程式を習った。

新井幸太:ダ・ヴィンチの研究者。年一回の協同組合のポスト決めはAIにさせるべきと主張。

ベラ:ダ・ヴィンチの研究所所長。

ゾヤ・ブーン:ゾー。狩人たちの女神(ディアーナ)と思ったが、ジャッキーの娘。ミノア人系。ジョン・ブーンのひ孫。火星生まれ4世。惑星一周マラソン中のニルガルの前に現れる。火星年20歳。

マリー:火星代表団団長。火星は地球に対抗するために太陽系惑星同盟を提案していた。

ミッカ:火星第一主義マーズ・ファーストの代表者。惑星行政評議会メンバー。ジャッキーの元愛人のひとり。

アリアドネ:ドルサ・ブレヴィアの若い女性。女神。案内役として登場した。人権について研究。行政評議会メンバー。

アトス:美青年。ロードスの西・リスク峡谷出身。船乗一族の三世。祖父母は緑の党グリーンズ。

ヴェンダナ:アトスの仲間。

アントル:アラブ人。火星生まれ二世か三世。現在の実質的なアラブ人のリーダー。ジャッキーの仲間。Greens。ジャッキーの赤ん坊の父親である可能性がある。

ナネディ:ジャッキーの取巻きのひとり。人気がある。

ピーター:ジャッキーが近寄りたい。

ダイアナ:マヤが2121年ヘルズゲートに来たときいっしょだった若い女性。エスターの孫娘、ジャッキーのまたいところ。ダイアナ:エスターとピーターの息子ポールの娘。ジャッキーの異父兄弟。アン、サイモンの曾孫。第四世代。プラクシスの地質学者。

ゼイク:アラブ人の代表者。

ナジク:その妻。

スマダル:アケロンで記憶にまつわる研究をしている。

ニッキ:ナディアとアートの娘。

フランセスカ:ニッキの娘。5歳。

七雄:ナナオ。3歳。

ブーン:5歳。

タティ:2歳。

《火星三部作 作中年表》

『レッド・マーズ』(2026-2061年)

2020年 NASAによる人類初の有人火星着陸

2027年 <最初の百人>が火星に到着。アンダーヒル建設開始。

2030年代 国連火星事業局(UNOMA)主導で入植と地球化(テラフォーミング)が進展

| 長寿処置の発見

2040年代 地球で超国籍企業体が台頭

2056年 ジョン・ブーン暗殺

2058年 初代の宇宙エレベーターがシェフィールドで完成。この頃、地球では経済的不平等の拡大から紛争が頻発。

2061年 第一次火星革命。宇宙エレベーター倒壊、フォボス落下。地球で世界戦争発生。約6ヶ月で1億人が死亡。

『グリーン・マーズ』(2081-2127年)

2075年 ジャッキ・ブーン誕生。

2076年 ニルガル誕生。

2100年 2代目の宇宙エレベーター完成。

2101年 火星軌道上にソレッタを設置。

2102年 惑星緑化事業年次会議をバロウズで開催。

2104年 ドルサ・ブレヴィア会議。宣言を採択。

2106年 低軌道空中レンズ破壊事件。

2108年 デイモス軌道離脱事件。

2123年 国連暫定統治機構(UNTA)部隊が明日香を占領。翌年、ヒロコら行方不明に。火星紀元50年。

2127年 地球で西南極大陸の氷床が崩壊し、大洪水発生。第二次火星革命。

『ブルー・マーズ』(2127-2225年)

2127年 シェフィールド周辺で戦闘発生

2128年 制憲会議開催。火星使節団が地球を訪問。ナディア、初代の行政評議会議長に就任(-2134年)。

2129年 ゴヤ・ブーン誕生。

2160年代 宇宙船用の核融合エンジン実用化。

2180年 ゴヤとアン、木星系と天王星系を訪問。

2181年 <大運河>での選挙キャンペーン

2190年代 地球からの未承認移民が急増

2211年 <最初の百人>の生き残りがアンダーヒルに集合

2212年 第三次火星革命。

<あらすじ>

■第8部 緑と白(承前)～ニルガル目線

ニルガルはヒロコを探して彷徨う。
明日香の高原盆地ティルレナで耕作地を切り開く。

20年が経過。

アートとナディアは娘ニッキと明日香で暮らしていた。ニッキの身長はもう少しでナディアを追い越しそうだった。

そこへニルガルの高原盆地にジャッキーとアンタルらがアラブ人たちを連れてやって来る。
地球人は年間100万人単位で火星にやって来て、フリー・マーズには入らず、地球を支持していて防ぎきれない、とジャッキーは言う。
ニルガルをまた政治の舞台に引っ張り出しに来たのだった。
しかしジャッキーが気にしていたのは火星ではなく、自分の権力だった。

ジャガイモの葉が急に变色してしまう。

ニルガルがサックスに連絡を取って分析してもらおうと、ウィルスより小さいウィロイドというものが感染していることが分かった。
サックスは対処方法が分からず、ニルガルはとりあえずジャガイモを掘り出して、他の動植物を増やして均衡を保とうとする。
サックスとスペンサーが来た時、砂嵐に襲われ、高原盆地は1メートルあまりの砂に覆われてしまった。

■第9部 博物誌 ～ サックス目線

ニルガルはダ・ヴィンチのサックスの家に行く。
そこへコヨーテが現れる。
ニルガルとサックスは「ヒロコは生きている」というが、コヨーテは「イワオ、ジーン、ライアとともにUNTAに殺されたんだ!」という。

ハリー・ホワイトブックが、ワニのヘモグロビンを哺乳類に注入することで、二酸化炭素に対する耐性を向上させた。
サックスはこれを自身に適用した。外でマスクを着けずに歩けるようになった。

火星紀元65年(西暦2148年?)、サックスは軽装でダ・ヴィンチから出て女性の天才物理学者バオといっしょにクリュセ湾南岸を周る。
バオたちダ・ヴィンチのチームが研究している超ひも理論は、量子力学と重力を結びつけられるかもしれなかった。
超ひも理論は数学的には説明がつくが証明するための実験がむずかしい。
バオ「プラズマはスピン・ネットワークが押し付けるパターンを描くものとしてモデル化するとよく理解できるかもしれない」「プラズマは非常に均質」

サックスはバオが核融合チームと研究を進めればプラズマの解析ができるかもしれないと言う。
しかしバオは国元の母親が死んで帰郷してしまう。
核融合研究メンバーはバオと話し、小型のパルス核融合エンジンの可能性にヒントを得る。
(核融合炉自体は数十年前に完成していたが大型だった。)

サックスは一人で野外調査をしているところ、アンと出くわす。
アンに強制的に長寿治療をして以来初めてだった。
サックスはワニの血でマスク無しで外を歩いている、脳は100匹分のネズミなど自分の身体に施した処置の話をする。

ダ・ヴィンチは研究者の集まる都市で、政治は苦手だった。
年に一回更新する協同組合のポストもロシアン・ルーレット・パーティーと呼ばれていた。

火星では多頭政治がうまく行くことが明らかになって来た。

それを支える組織:

隣組委員会、農事委員会、水利委員会、建築評価委員会、企画評価委員会、経済調整グループ、これらを調整するクレーター評議会、惑星代表団顧問委員会。

これらは英国のギルド型社会主義、ユーゴスラヴィア式の労働者管理、モンドラゴン式の所有形態、ケララ型の土地保有などの要素を統合したもの。

エコ・テロリストはまだいるが、アンはレッズを周り、ほとんどのレッズは社会復帰した。

サックスはミシェルを呼んでハイキングに出る。

そしてアンのこと、マヤのことを話す。

マヤは明日香で協同組合の仕事に就いていた。

ミシェルは地球に帰ってプロヴァンスに一時的に戻りたいと言う。

■第10部 価値の変容(ヴェルテスヴァンデル)～ニルガル目線

首席顧問と技師サモワールと三人の同僚がパルス融合エンジンの原理について話す。

重水素とヘリウム3にレーザーを照射して内破させる。

天下温度はナノ秒単位の7億K。

エネルギーは帯電粒子として放出され、電磁場内に収められる。

電磁場は遮蔽と推進板になり、またレーザーの動力源に使うためのエネルギーの回収システムとしても作用する。

帯電粒子は全て後方に導かれ、その角度をつけた鏡装置を通る。

鏡はレーザーにとってはドアのハンドルとなり、そこを通過すると核融合の産物は平行になる。

燃やす燃料は、火星重力に相当する加速度3.73メートル毎秒で、千トンの船で毎秒373グラム使う。千トン=乗員と船350トン+装置と燃料650トン。

1日に約30トン。

乗客は継続的に重力の感覚を得られる。

ヘリウム3は木星大気上層から採集する。

乗客数は500名。

火星から天王星まで3週間。

火星から木星まで10日。

火星から地球まで3日。

ニルガルは火星一周マラソン大会に参加する。

過去4回優勝していた。

シェフィールドを出発し、途中でマーモット、山猫、ゾーという女性、カモシカ親子三頭とそれを追う狩人と会う。

ニルガルは狩人たちに加わり、狩猟をしながら移動する。ジャック兔、カリブーに会いながら来た場所はクリュセ湾を見渡せるカセイ・フィヨルドの二ロケラスだった。

二ロケラスでニルガルは飛行船グライダーに乗るが、そこにバードスーツを着て飛ぶゾーが再び現れる。

ゾーはジャッキーの娘だった。

■第11部 緑化力(ヴィリディタス)～ゾー目線

火星歴史学者シャーロット・ドルサ・ブレヴィアの著書より。

超マルサスの人口増加と地球での大洪水は人類の「ディアスポラ(拡張)」を短期間に飛躍的(「アッチェランド(次第に早く)」)に進めた。

地球の人口180億人、火星の人口1800万人。

人類はこれまでに、小惑星帯を刑務所にして来たが、シャトルを行き来させて、それらを急速に都市化させていた。

各小惑星都市は同盟を結んだり、宇宙船に対する海賊行為をした時期もあった。

人類は外惑星・木星、土星、天王星、冥王星にもすでにテントを作り住み始めていた。

さらに内惑星・水星にもすでに居住地があった。

水星は高温で膨張するが、都市自体が巨大なトラックの上を時速3キロで行き来して陽光集積機で電力を生み出しながら

走る巨大な列車のようだった。←秀逸!!

火星は協同組合経済の導入によって資本主義社会の中に民主主義を実現していた。

地球は火星にもっと多くの移民を受け入れるべきと考えていた。

プラトン、プルタルコス、ベーコン、ギボン、シャンフォール、カーライル、エマソン、マルクス、シュペングラー。
ミシェル・デュバル、シャーロットも歴史家として名を連ねていった。

22世紀末。

水星の楕円球都市のゾー。

火星人と水星人の貿易の会合でゾーはアシスタントとして水星に来ていた。

水星の開発。

2142年 トラック上を最初の車輛集団が走り出す。

2150年 移動しながらターミネーター(陽光明暗境界線)の建設。

2160年

| 太陽光を集光してレーザーで外惑星入植地に送り裕福に。

2170年

2181年 各種核融合エネルギーの開発成功→エネルギーは安価に。

一方、外惑星は照明衛星や巨大ガス惑星の大気上層で燃えるガス・ランタンを建設し、水星の豊富な太陽資源の重要性は低くなっていた。

水星は小惑星、外惑星系と同じく階層制が再建されていた。

寡頭制支配層の尊師(ムッラー)たちは秘密主義で尊大な集団で太陽系の新しい秩序を理解していなかった。

ゾーは水星のターミネーターの指導者・水星ライオンと呼ばれる若い補佐官を呼んで「貴重な重金属が豊富な火星と水星は互いに提携すべき。もし火星と提携したくないのであれば、火星は水星の南半球の金属鉱床を開発する、必要な水は両極に彗星を打ち込んで得る」と話す。

金星もソレッタを傘に気温を下げる処置が行われ、1日が1年より長い自転も電磁力を利用して1週間にまで早める計画が立てられていた。ダイソン・モーター式。

しかしソレッタでは心許ないので、いずれ恒久的な太陽光遮蔽手段を講じる必要がある。

ゾーは地球に降り立ち、カルカッタでジャッキーのスパイと会い、旧メタ・ナショナル、G11、中国、インド、日本の動向に関する情報を預かる。

ゾーは火星に戻るとバーディング(バード・スーツを着て飛ぶスポーツ)を行ない、遊びに耽る。

そこに母親であるジャッキーが来て報告を聞き、今度は植民の始まっているガリレオ衛星群、天王星系に行くように言われる。

ゾーは1ヶ月ほどコープ(協同組合)の仕事で地下と地上を行ったり来たりする。

そこへサクスが現れ、アンを天王星系ミランダに誘ってくれと言われる。

アンはゾーといっしょに火星代表団として天王星へ向かう。

宇宙船はガリレオ衛星群(カリスト、ガニメデ、エウロパ、イオ)を間近に見ながら通過する。ここにもすでに入植している人間がいた。

カリスト、ガニメデ、エウロパは氷の層で覆われた衛星だった。

彼らは水を輸出していた。

一部のテントの下には中心に湖があった。

カリストではこの手法で建設されたテント・タウンは「レイク・ジュネーヴ」と呼ばれていた。

そしてこのカリストのテント・タウン"レイク・ジュネーヴ"で木星の代表団と会う。

カリスト、ガニメデ、エウロパは移動式融合反応炉が表面を歩き回り氷を熱し、ガスを水素/酸素の大気に注入する。やがて砕いた岩石で赤道帯を作り、湖の周りにツンドラ生態系を組み上げようと計画していた。イオには水がないので、三大衛星からレール・ガンで氷と包接化合物(クラスレート)の大きな化合物を撃ち込む。イオの火山周囲に硫黄温泉に、硫黄を糧にするバクテリアを注入して時間をかけて環境改善する。これらの4衛星に対する計画にはいずれも光が必要だった。そのため木星のラグランジュ点に巨大な宇宙鏡が建設されつつあり、木星の大気上層には20個のガス・ランタン(ヘリウム3を利用して眩しい)が光っていた。しかしそれでもまだ暗かった。ジャッキーは、多数の巨大核融合装置、多数のガス・ランタン、宇宙鏡、環境改善技術一般における火星技術をコープを通じて提供しようとしていた。火星側は資本と専門技術を提供し、見返りに特恵的な貿易協定、ヘリウム3、木星の小さな衛星群に対する採掘権、環境改善にも加わるチャンスを求めている。木星側はもちろん地球とも同様の交渉をしていた。ゾーは環境詩学的計画ではのろすぎるし(数千年という単位)、木星の強烈な電磁場のせいでバクテリアが変異してしまう、火星ならもっと早くうまくやれると主張する。

木星の大赤斑は消えていた。木星衛星群生まれの若者は生まれてからずっと0.1Gのもとで生活し、地球や火星にも関心がなく、泳ぐことや飛ぶことを信じていた。暗い光に合わせて目を変え、鰓(エラ)を生やしている者もいた。進化の次の段階に達していた。

次は天王星の衛星ミランダだった。天王星には15個の衛星がありティターニアとオベロンを除けば直径600kmに満たないものばかりだった。

天王星系最大のテントタウン『ヒッポリタ』はオベロンにあった。重力は光以上に乏しく、市民は飛んで移動した。最近、天王星大気上層部にガス・ランタンを浮かせて明るくなり、人々はたくさん色が付いたと話した。淡い光でモノを見るために瞳孔拡張剤を使う人もいた。

天王星にも惑星環境変化を望まないレッズがいた。さらに天王星は地球に対抗するための太陽系惑星同盟を望まなかった。アン、ゾー、天王星のレッズたちはミランダの自然環境を見に行った。

■第12部 進むのが速すぎる～マヤ目線。
ミシェルとマヤはいっしょに暮らしていた。

2181年、大運河での選挙キャンペーン。
マヤとミシェルはロードスからヘルズゲートへ通じる運河を下る。
フリーマーズのジャッキーやグリーンズ、マーズ・ファーストも運河を下りながら選挙運動をして行った。
ジャッキーはこの頃、アトス、ミッカ、アンタル、ナネディらを取巻きにしていたが、ピーターと親密にしたがっていた。
そこへ娘のゾーが飛行事故で海に落ちて死亡したという知らせが入った。

2190年代。
地球からの未承認移民が急増。

火星生まれの人間は人種は混淆していて人種差別自体は無かったが、地球からの移民者は変化を遂げた火星人とはいま交れなかった。逆もそうだった。
地球からの移民がタイムマシンとして作用しつつあった。
移民が過去の小さな島をいくつか持ち込んでいた。

マヤとミシェルはニルガルに会うためにマイナスワン・アイランドで開催されている競技会見に行く。
マヤはニルガルに「このままではまた火星と地球は戦争になってしまう。ジャッキーのフリーマーズとマーズファーストが手を組むのを阻止しなければならない」と言う。
ニルガルは「政治活動はもうしない。いろいろな場所で会った人たちと話す」という。

オデッサに行ったマヤとミシェルはプラクシスのアパートでスペンサーが死んでいるのを発見する。
最初の百人やダ・ヴィンチの技師たちを呼んで葬儀を行なった。
マヤはアトスに電話して「マーズファーストを取り込め」と話す。

マヤはオデッサでAWT(エーゲン・ウォーター・テーブル)というコープのメンバーになる。
ヘラス周辺の水利を扱う事業ダイアナもメンバーだった。
劇団に参加し演劇も行なうようになる。
中国人たちはフオ・シン峡谷に隠し入植地を築いていたことが判明する。
火星政府は中国政府との協議の上、次の入植者の数を減らすことで合意した。
演劇を通じて人々の価値観を変えることを意識していた。
マヤはプレスク・ビュー(ほとんどすべてが見えている感覚)を味わうようになる。

シャーロットとアドリアネがマンガラからマヤを訪ねて来た。
ドルサ・ブレヴィア人(ミノア人)はすでにフリー・マーズとの提携は解消していた。
北海には多数の人間が収容出来る浮遊都市も出来ていた。
シャーロット「問題は地球からの移民の数ではない。移民の質、思想信条」と訴える。
マヤ「何をやるにも国連を巻き込むしかない」
アリアドネ「旧メタナショナルも国連よりも火星に進出したがっている」
マヤ「地球には援助しなければならないし、地球の容認範囲内で裁量しないとまた戦争になる」
マヤはより政治活動に関わるようになる。
(地球のクエーカー教徒をもう少し目立たずに援助するため出来ることを続けた)
環境収容能力を超えるほど移民を受けては19世紀以降の地球の歴史と同じになる。

2206年。
平時の間でこれまでに亡くなった最初の百人は、スペンサー、ヴラド、サマンサ、ボリス、イエーリ・ジュードフ。
最初の百人の生き残りは、ヒロコたち7人が生きていなければ18人になっていた。
マヤ:221歳。
アン・クレイボーン:226歳。
メアリ・ダンケル:212歳。
他のメンバーはオデッサに移住して来ていた。
ミシェル。アケロンからマリーナ、ウルズラ。ナディアとアート。サックス(ダヴィンチと往復)。

■第13部 実験の手順～サックス目線。

ニルガルはシェフィールドに行き、アルデバラン星系で20光年離れた惑星に向かうジャッキーを見送る。
ジャッキーは火星での役目を終えたと考え、ドルサ・ブラヴィア人も多く、最初の百人だけのペアも6組いた。

サックス。
思考の筋道を見失うことが多くなって来た。
マヤ、ミシエルのアパートにいた時、マヤはフランクの若い頃の顔を見て「面白い顔だ」と言う。ミシエルはマヤの精神障害の頻度が上がって来ていることを憂慮する。
しかしミシエルはその直後、アート、ナディア、サックス、救急隊員に看取られて死んでしまう。突発性崩壊。
マヤはジョン、フランクについてまた伴侶を失った。

サックスとマヤは毎日海辺の小道で会うことになった。

サックスは突発性崩壊について研究するが、方向性を変え、死ぬまで自分の記憶を保っていられるようにすることを考える。

サックスはオリンポス山近くのアケロンに移動する。
アケロンは長さ15km、高さ600mほどの岩をくり抜いて造られた研究施設だった。
プラクシスもこのインフラの補修をしたあと、まだ密接に関わりがあった。
ヴラド亡き後も研究員はマリーナ、ウルズラが指導していた。
サックスは記憶想起(アナムネシス)の研究に関する提案を行なった。

アケロンにはゼイクもナジクも来ていた。
記憶力のいいゼイクは自身をスマダルの記憶研究に差し出していた。
ゼイクはジョン・ブーンが殺された晩の記憶を思い出し、スマダルはその3次元映像を見て質問を重ねた。
サックスもその場にいたが思い出せない事があった。

サックスは最初の百人の生き残りを、火星最初の植民地アンダーヒルに集めて記憶想起に関する実験を行おうと考える。
アンも誘うために、オリュンポス山頂カルデラに赴きいっしょに登山をする。

2211年。
アンダーヒルにマヤ、アンも含めた、最初の百人の生き残り14人が集まる。
ナディア、デズモンド、ウルズラ、マリーナ、ヴァシーリ、ジョージ、エドワード、ロジャー、メアリ、ドミトリ、アンドレア。
マヤは薬を使わず、監視人の役割を果たす。
それぞれの記憶が甦る。
ジョン・ブーン、フランク、アルカディイ、フィリス、サイモン、ミシェル、ヴラド、スペンサー。
クレーンの下敷きになって死んだタティアナ・ドロヴァヤ、今も行方不明のヒロコ、エフゲニア、ライア、イワオ。

その数週間後、サックスはアンを誘って航海に出た。
サックスはアンを理解し、レッズだったアンも自身の変化、反アンを感じ始める。

長さ2km、高さ50mのタウンシップにも上陸する。人口は5千人。
北海ではこうした巨大な船で暮らす人が増えていた。
そこへ国連側が軌道エレベーターの上部から火星警察を追放したという知らせが入る。
名目は腐敗しているためということだった。
再び船で航海を続けるが大嵐に揉まれてしまう。
サックスは気球を膨らませて空へ退避する。
そして陸地に着陸したのだった。

■第14部 鳳凰の湖～アン目線

2212年 第三次火星革命。非暴力的。地球側が軍を送って来て多くの植民を開始。
火星人が融和で迎える。
(2061年第一次火星革命—宇宙エレベーター倒壊、フォボス落下、地球で世界戦争勃発。
2123年UNTA、明日香を占領。ヒロコら行方不明に。
2127年第二次火星革命—地球での氷床崩壊、大洪水発生。シェフィールドで)

アンはサックスやマヤといっしょにアートとナディアの住む家に泊まっていた。
自身の中に反アン、地球生まれ4世を感じる。
アンとマヤは火星生まれの子供達を連れて海辺に遊びに来る。
アンは突発性崩壊の兆候が現れるがなんとか凌ぐ。
そこへサックス、ニルガル、バオが自転車で現れる。

<メモ>

モンドラゴン協同組合:スペイン・バスク地方の協同組合。組合員は資本を買って参加する。

公案:中国。禅で悟りを開くための問題。例:隻手の声。

アトリ:花鶏。「首の位置が次々と変わる」顔周辺の色が変化するということか？

ルンゴンパ:見える範囲の最も遠くに自分の意識を飛ばす。そして、そこに既にいる、という意識のもと、身体を動かすことで、空中歩行のように地形の影響を受けないで移動できるようになる。迷信。

コンメディア・デッラルテ (イタリア語: *Commedia dell'arte*) は、仮面を使用する即興演劇の一形態。16世紀中頃にイタリア北部で生まれ、主に16世紀頃から18世紀頃にかけてヨーロッパで流行し、現在もなお各地で上演され続けている

ケイゲル体操(ケーゲル体操):子宮法。尿失禁防止の体操。

コンドライト:石質隕石。

ムッシュウ・デュバル？

3つのビュー。

- ・デジャビュ
- ・ジャメビュ〜未生感(ジャメ・ビーヴル)
- ・プレスクビュ

形而上学(けいじじょうがく、希: *μεταφυσικά*、羅: *Metaphysica*、英: *Metaphysics*、仏: *métaphysique*、独: *Metaphysik*) は、感覚ないし経験を超え出でた世界を真実とし、その世界の普遍的な原理について理性的な思惟によって認識しようとする学問ないし哲学の一分野である^{[1][2][3]}。世界の根本的な成り立ちの理由(世界の根本原因)や、物や人間の存在の理由や意味など、見たり確かめたりできないものについて考える^[4]。対立する用語は唯物論である^[1]。他に、実証主義や不可知論の立場から見て、客観的実在やその認識可能性を認める立場^[1]や、ヘーゲル・マルクス主義の立場から見て弁証法を用いない形式的な思考方法のこと^[1]。

デカルト流形而上学:人間の理性によって、神の存在を証明できる、とする。

ecopoesis: 環境詩学 = ecopiesis:生態系創成